

報道関係者各位

2007年8月吉日

第69回 虎屋文庫資料展のご案内

「歴史上の人物と和菓子」展

2007年11月1日(木)～11月30日(金) 10:00～17:30

虎屋ギャラリー(虎屋ビル2階) 入場無料/会期中無休

地下鉄赤坂見附駅A出口より徒歩約7分

織田信長がポルトガル人から贈られた金平糖に角はなかった？！
日本の歴史を彩った人々はどのような菓子を食べていたのでしょうか。
歴史上の人物と菓子の関わりについてエピソードを交えてご紹介します。

清少納言とかき氷

冷凍庫のない平安時代にかき氷？

平安時代の才媛、清少納言は『枕草子』の中で、甘葛^{あまぎら}※がけのかき氷の上品な美しさをたたえています。当時の氷は、冬より夏にかけて氷室^{ひむろ}に貯えられた貴重品。もちろん一般庶民には手の届かない貴族たちだけの食べ物でした。

※ツタの樹液を煮詰めた高級な甘味料とされる。

道元と饅頭

箸で饅頭を食べる

鎌倉時代、曹洞宗を伝えた道元禅師は厳しい修行で知られた人物ですが、彼の言行を伝える『正法眼蔵』^{しょうぼうげんぞう}には、饅頭の食べ方が記されています。器に饅頭を盛って汁を添え、箸を使うのが正式でした。現在のような甘い小豆餡が入っていなかったと考えられています。

信長と金平糖

角のない“Confeito”

織田信長に謁見した宣教師ルイス＝フロイスはポルトガルの砂糖菓子“Confeito”を贈りました。金平糖の原形となる砂糖菓子で、砂糖を輸入に頼った当時は大変な貴重品でした。現在の金平糖とは違って角はなくデコボコしていたと考えられます。

黄門様と福寿饅頭

誕生日のお祝いにオリジナル饅頭

水戸黄門こと徳川光圀は、友人中院通茂なかのいんみちしげの古稀のお祝いに、年齢の70歳にひっかけて重さ70匁もんめ（約260グラム）の大饅頭を100個贈りました。饅頭の上には紅で「福寿」というおめでたい文字が記され、光圀が友人を思いやる気持ちが伝わってきます。

徳川家定と饅頭・カステラ

将軍様は甘いもの好き

来年の大河ドラマ「篤姫」は薩摩藩島津家の分家から、13代将軍徳川家定の夫人となった天璋院てんしょういんが主人公です。家定はことのほか甘い物好きでした。江戸城内で採れたさつま芋やかぼちゃの煮物や饅頭、カステラを楽しんでいます。ひよっとするとお手製だったのかもしれない。

展示品

菓子類…歴史上の人物にかかわる菓子の復元ほか 約30点
資料類…人物肖像パネルや関係資料、菓子絵図帳、古文書ほか

展示解説

毎週月曜日 10:30～ 11日（日） 10:30～ 21日（水） 13:30～
参加自由（予約不要）。

お問い合わせ先

〒107-8401 東京都港区赤坂 4-9-22 株式会社 虎屋 虎屋文庫

Tel 03-3408-2402 Fax 03-3408-4561

e-mail bunko@toraya-group.co.jp

<http://www.toraya-group.co.jp/>

ホームページでも「歴史上の人物と和菓子」を連載中です

* 同封の写真は、水戸黄門こと徳川光圀が友人の誕生祝に贈った「福寿饅頭」の復元です。